

第606回

I B C番組審議会 議事録

— 議 題 —

「I B Cの年末年始番組」

平成28年1月20日（水）

(株) I B C 岩手放送

第606回IBC番組審議会

1. 開催日程 平成28年1月20日(水) 午前11時
2. 開催場所 IBCデジタルセンター3階Dホール
3. 委員の出席
- | | |
|---------|--------------|
| 委員総数 | 10名 |
| 出席委員 | 9名 |
| 出席委員の氏名 | |
| 委員長 | 田代 高章 |
| 副委員長 | 熊谷 志衣子 |
| 委員 | 村井 康典 小松 務 |
| | 畠山 俊彰 宮 順子 |
| | 龍澤 尚孝 澤口 たまみ |
| | 岩田 圭司 |
| 欠席委員の氏名 | 佐藤 善通 |
- 会社側の出席
- | | |
|-------|--------------|
| 鎌田 英樹 | 代表取締役社長 |
| 川上 隆 | 常務取締役営業本部長 |
| 神 初見 | 取締役放送本部長報道局長 |
| 中島 勝志 | 編成局長 |
| 中村 好子 | 報道部部長 |
| 平澤 泰志 | テレビ編成部副部長 |
- 事務局
- | | |
|-------|-----------|
| 相原 優一 | 番組審議会事務局長 |
|-------|-----------|
4. 議 題 「IBCの年末年始番組」「放送基準の一部改正」

5. 議事の概要

<委員の主な発言>

「ニューズエコー年末スペシャル」について

- 国体の存在そのものが問われているので、盛り上げには難しさがあるが、国体を控え、こうした機会に活躍が期待される方々が出演するのは意味があった。
- 政府の動きに対しての批判的な行動、一方でそうした動きへの批判が世の中にある中で、T P Pや安保の問題についてきちんと県内での反対運動があったことを取り上げていたことは評価したい。
- カテゴリー分けで、戦後70年でまとめられるニュースが分かれた扱いになっていた。復興のまとめも、どこまで復興が進んだか分からなかった。また高校生のスタジオ出演は必要だったか？違和感があった。
- 去年は節目の年。T P P問題、復興5年目を迎えるタイミング、軽減税率の問題など、キーワードや柱、節目や転換点を中心に見せる方法もあったのではないか。そうした発想があれば、その年がどんな年だったかを視聴者に印象づけられた。
- 新設の盛岡市アイスリンクからの中継は、どんな施設なのか、国体でどう使われるかなど県民も関心があり、冬季国体の応援や周知に対する力になった。
- これからの岩手に対するI B Cとしてのビジョンを示すなど、I B Cのスタンスを県民にしっかり出せれば、他局との差異化にもつながる。ニュースを伝えるだけでなく、そこにI B Cとしての局の姿勢が出ることで、視聴者への伝わり方が違ってくるのではないか。

「その他の番組」

- 「盛岡文士劇」の放送日が正月3日・4日になったが、4日は仕事始めで見られなかった。従来の三が日に戻し、県民の期待に応じてほしい。I B Cが放映権を持っているが、他局のアナウンサーなど様々な方が関わっている劇なので、変えることについて慎重な検討が必要ではなかったか。

<放送基準の一部改正>

日本民間放送連盟の放送基準一部改正に伴い、I B C岩手放送では自社の「放送基準」の一部改正を番組審議会に諮問、番組審議会はこれを「妥当」と答申した。

これを受けI B C岩手放送では2月8日、「I B C岩手放送放送基準」の一部改正を決定した。これによりプライムタイムにおけるCM量の基準は「上限」を撤廃し「標準」とするが、週間のCM総量は従来通り総放送時間の18%のままとする。